

## 第10回南区自治協議会 会議概要

日 時 平成28年1月27日(水) 午後2時00分～午後3時30分

会 場 新潟市南区役所4階 講堂

- 次 第
- 1 開会
  - 2 報告・連絡事項(本庁分)  
(1) 水と土の芸術祭2015実施報告について(水と土の文化推進課)
  - 3 議事  
(1) 平成28年度特色ある区づくり予算(区役所企画事業)
  - 4 報告・連絡事項  
(2) 自治協議会会長会議について  
(3) 新潟市国民保護協議会について  
(4) 部会報告  
(5) その他
  - 5 次回全体会の日程について
  - 6 閉会

### 事前配布資料

- 資料1-1 水と土の芸術祭2015事業実施報告書概要  
資料1-2 水と土の芸術祭2015事業実施報告書  
資料2 平成28年度特色ある区づくり予算一覧(区役所企画事業)

### 当日配布資料

- 会議次第  
資料3 新潟市国民保護協議会について  
資料4 部会報告

出席者 小杉由美子委員, 丸山幸一委員, 田村義三郎委員, 青木智子委員, 小林 誠委員, 渡辺 康委員, 木村 功委員, 小林公子委員, 棚村真寿美委員, 小林 孝委員, 小山田充委員, 西村 徹委員, 知野美智子委員, 市嶋洋介委員, 丸山新吉委員, 野澤敏子委員, 西脇 博委員, 小林敬子委員, 原 五郎委員, 大那 孝委員, 田中容子委員, 大橋章子委員, 高橋文子委員, 本間智美委員, 小林加代子委員  
以上25名  
(欠席: 片野秀雄委員, 佐々木彰治委員, 原 正行委員, 渡辺悦子委員)

事務局 渡辺区長, 永井地域課長, 高橋地域課長補佐, 堀総務課長補佐, 新井田地域課地域振興担当係長, 伊藤同企画担当係長, 大塚同主査, 蝦名同主査, 松元同主事, 山際主事

関係課 高橋区民生活課長, 高橋健康福祉課長, 野内産業振興課長, 木村建設課長, 牛腸味方出張所長, 宮本月潟出張所長, 畠山南区農業委員会事務局長, 江口南区教育支援センター所長, 吉田白根地区公民館長,

報 道 1名(新潟日報社)

傍聴者 1名

説明者 塚原水と土の文化推進課

(午後2時00分)

## 1 開会

○事務局（高橋地域課長補佐）（配付資料の確認）

○議長（棚村会長） あいさつ

欠席者の報告

傍聴者の報告（所定の手続きを経て、傍聴していることを報告）

## 2 報告・連絡事項(本庁分)

### (1) 水と土の芸術祭 2015 実施報告について（水と土の文化推進課）

○議長（棚村会長） 次第2（1）「水と土の芸術祭2015実施報告について」、水と土の文化推進課から説明をお願いします。

○塚原水と土の文化推進課長 本日は大変貴重な時間をいただき、感謝している。昨年開催した「水と土の芸術祭2015」の実施報告ということでおじゃました。せっかくの機会なので、皆様から忌憚のない感想やご意見をいただいて帰りたいと思っている。ご協力をお願いしたい。事前にお配りした資料は、資料1-1、資料1-2と2種類あるが、資料1-2が事業実施報告書ということで本冊になる。全87ページということで情報量が多くなっているの、本日は要点を抽出した資料1-1に基づき説明を進める。なお、この資料の中に、【本冊P2】などと書いてあるが、これは報告書本冊の掲載ページとなっているので、後ほどご覧いただきたいと思っている。

資料1-1をご覧いただきたい。1番の会期だが、記載のとおり、過去の芸術祭の会期の約半分の87日間の会期設定で実施した。2の会場については、今回は鳥屋野潟をはじめとした新潟を代表する四つの潟を中心に、市内各所で展開したところである。3番の主な事業内容については、(1)から(5)まで、本芸術祭の事業を構成する5本柱について記載している。1本目の柱である。(1)市民プロジェクトだが、これは市民の皆様が自ら企画運営し、地域の魅力を発信する事業に対して支援を行ったものである。市内全域で109件の多彩なプロジェクトが実施された。このうち、過去の芸術祭でつながりのできたアーティストを招へいするもので、アートプロジェクトとして位置づけたものが11件にのぼるなど、大変大きな盛り上がりを見せたところである。特に南区においては七つの市民プロジェクトの連携を図り、それらと地域の観光施設をつなぎ、南区の魅力を総合的に発信するツアー商品を造成いただくなど、ほかの区にはない先進的な取組みを行っていただいた。また、市民プロジェクトを通じ、白井、白根の商店街にある古い町屋に新しい命が吹き込まれ、今後も継続的に活用されていくことになったと伺っている。このような素晴らしい活動を今度も大切に育てていってほしいと願っている。

続いて2本目の柱、(2)こどもプロジェクトである。次の世代を担う子どもたちの個性や創造性、心豊かな人間性を育むことを目的に、記載の事業を実施した。①ワークショップは、アートだけではなく、踊り、音楽、食など多彩なプログラムを30回実施したほか、六つのプログラムを学校への出前授業、アウトリーチという形で実施した。また、②みずつつち給食では、芸術祭、東アジア文化都市の開催にちなみ、オリジナルのメニューを170校で提供したほか、③みずつつち合宿においては、東日本大震災の被災地の子どもたちと新潟市の子どもたちが交流する2泊3日の合宿を2回実施した。

3本目の柱、(3)アートプロジェクトである。今回の芸術祭では、56作家による69の作品を展開した。このうち、パフォーマンス部門においては鑑賞型と参加型で七つのプログラムを実施した。

次に4本目の柱はシンポジウムである。自然との共生をテーマに、シンポジウムを4回実施し

たほか、芸術祭の参加作家や有識者との座談会を5回実施した。

最後に5本目の柱である。食・おもてなしである。①カフェとあるが、アの渦のカフェは、キッチンカート、カフェのしつらえである屋外アート作品が形を変えながら四つの渦を3週間ごとに移動し、それぞれの地域における食材を生かしたオリジナルランチや飲み物などを提供したほか、食の交流会と題し、地域ごとにテーマを変えながら食材の生産者と料理人、お客様をつなぐ食の交流会イベントを5回実施した。イの渦のカフェ購買部では、ベースとキャンプである中央区の旧二葉中学校において、米や東アジアをテーマに軽食や飲み物などを提供した。②地域のおもてなしについては、メインフィールドである四つの渦とその周辺において、地域の皆様から渦舟の乗船体験やガイドツアーなど10のプロジェクトを実施いただいた。

以上が芸術祭の主な事業内容である。

4番、来場者数の延べの人数は、表の一番右側の欄に記載があるとおおり、約77万5千人となった。今回の芸術祭は、一部の有料公演を除き、観覧料を無料としたことから、気軽に何度でも参加いただけた結果ではないかと考えている。

次に5番、決算見込みである。今回の芸術祭の総事業費は約2億5,500万円となった。このうち、市の負担分は約1億6,300万円となる見込みである。

次に6番、主なアンケート結果であるが、来場者の居住地は、県外の方が32.4パーセント、満足については「満足」、「ほぼ満足」が60.5パーセントという結果になった。

以上が芸術祭全体の実施概要である。

7番からは、主要事業のうち、南区で実施された事業について抽出したものが3ページまで続いている。後ほどご覧いただきたいと思う。

今後については、実施報告に加え、各種アンケートの分析結果、経済波及効果、各界からのご意見などを取りまとめ、総括報告書を作成していく。

以上で、水と土の芸術祭2015の実施報告について終わらせていただくが、本日、当時机上配付させていただいたチラシが2種類ある。一つは「渦シンポジウム」ということで、参加者募集中であるが、残りの席があとわずかとなっている。興味をお持ちの方は早めにお申し込みいただければと思っている。もう一つの「連続市民フォーラム」は芸術祭の開催を振り返りながら、これから市民の創造性をどう育てていくかといったことをテーマに、本間委員からも参加いただきながら、3回連続のフォーラムとなっている。こちらもぜひ参加いただきたいと思っている。

○議長（棚村会長） ただいまの説明について質問があればお願いします。

○西村委員 水と土の芸術祭もいい事業で、今後も続けていただきたいと思う。来場者数が2015年は77万5,268人というのはどういうことか。あまりにも少なすぎるのではないかとと思う。

○塚原水と土の文化推進課長 厚い資料の82ページをお開きいただきくと、来場者数の内訳の表を記載してある。(1)市民プロジェクトから(6)その他(主催事業等)まで、それぞれの事業ごとに来場者数の内訳を記載している。こちらのカウントについては、箱物施設で入口に職員がいるところはカウントしているが、今回のように、渦にある屋外アート作品についてはサンプリング調査といって、特定の日の特定の時間帯にスタッフが来場者のカウントをして、それを基に推計した人数の累計という形になっている。過去3回同じ集計のしかたをしていて、これについて今、少ないのではないかとといったご意見をいただいたが、私どもとすると、今回は無料ということもあったせいか、会期が半分になったわりにはたくさんの方から来ていただけたのではないかと考えている。

○西村委員 これは南区のイベントに来た方もある程度人数が入っているということか。

○塚原水と土の文化推進課長 市民プロジェクトで南区で開催いただいたものについては、各団体から来場者数を報告いただいているので、そちらをカウントさせていただいている。

○本間委員 質問ではなく、私は実行委員側なので、私から少し説明させていただきたい。先ほど、今回、空き家が継続活動できるという説明があった。具体手に言うと、臼井の「つかせ」さんが地域の茶の間ということで、「たぬきの茶の間」とい名前です3月中旬に進めることが決まっている。白根商店街の中の中伝商店だったところは、r a p p o r t (ラポルト)というカ

フェに生まれ変わるようになった。4月中旬にオープンすることになっている。このように、地域の魅力を引き出し、実際に経済活動やコミュニティ活動につながった実績ができた。3年に1回ではあるが、来年度も市民プロジェクトがあると聞いている。各コミュニティ協議会の皆様も、やってみようということでお考えのようであれば、私もぜひお力添えしたいと思っているので、お声がけいただければと思う。

今回、まずはやってみようという姿を子どもたちに見せることで、どのような学習よりも大事な、生きる力を大人たちが見せることができるのではないかと考えているので、よろしくお願ひしたい。そういった内容の、小須戸を事例にしたフォーラムが3月19日、連続市民フォーラムの第2回目にある。1回目から3回目まで内容は、命、建築と芸術、日常の芸術ということで、芸術というと遠い世界のような話に感じるとは思うのだが、意外と身近にあること、それがすべて芸術であるということになる。ぜひ、こういった機会に参加いただき、皆さんが住んでいるまち、地区に関して考えるきっかけを持っていただければと思う。ぜひ参加をお待ちしている。

**○市嶋委員** この事業を継続されていて、こういった文化的な活動はぜひ継続していただきたいと思うのだが、アンケートをとられているが、満足度というところで、具体的などころがあまり載っていない。何のためにこのアンケートをとられているのかということと、満足であったということだけ知っても、我々としては、何が満足だったのかということが分かりづらい。アンケートとして内訳もとらえているのかどうかということと、少ないが、「不満」、「どちらでもない」という方もいらっしゃるの、どちらかということ、こういった意見を拾い上げていったほうがよりよくなっていくのではないかと考えているので、詳細な部分で何か聞いているものがあれば、聞かせていただきたいと思う。

**○塚原水と土の文化推進課長** 本冊の86ページ、87ページに来場者アンケートの集計結果が出ている。1,665件のアンケートをいただき、こちらはすべて旧二葉中学校のベースキャンプにお越しいただいたお客様からいただいたご意見の速報値という形でまとめさせていただいた。例えば(6)の満足度の中にはいろいろな意見を書き込んでいただいているので、それについては、今、作成している総括報告書の中で具体的な意見を書き込みながら、今回の芸術祭の成果と課題についてまとめていきたいと考えている。旧二葉中学校に来られた方以外にも、例えばシンポジウムや座談会、コンサート、いろいろな講演などで独自にアンケートも採っているの、そういったものも総合的に見ながら分析していきたいと考えている。満足度については、6割型が満足しているという数字について、我々は少し低いととらえている。逆に「不満」の数が少なかったと考えているが、ここの評価は当然、ベースキャンプを見た感想が中心になってしまっているというところで、この数字については満足度をもっと上げていくためにどうしたらいいかということで、大きな課題として、我々事務局としてはとらえている状態である。

**○市嶋委員** 我々は詳細を見られるのか。見られないのか。見られるとしたらいつ見られるのか。

**○塚原水と土の文化推進課長** 2月定例会で議会報告という形で総括報告をあげていくので、その終了後にホームページ掲載等で、総括報告の中に記載していく形になるので、皆さんからご覧いただける状態にはする。

**○西脇委員** 踏み込んだ内容になるのだが、疑問に思ったのだが、アンケート結果の(4)の県外内訳は、水と土の芸術祭を目的に訪れたととらえていいか。たまたまやっけて寄ったものは排除してある数字か。

**○塚原水と土の文化推進課長** ベースキャンプに来ていただいたお客様ということで、興味を持って来ていただいたととらえているが、そもそも芸術祭を目的に来られたのか、それとも偶然通りかかったから入ったのか、そこについては分からないが、前者と我々はとらえている。

**○議長(棚村会長)** 苦言になるかもしれないが、来場者アンケートの集計結果、1,665件とあるが、来場者数の77万人に比べてアンケート結果の数は、統計上、あまり参考にならない回収数ではないかと思っているので、これを見て、一概に満足度が多かったかどうか、旧二葉中学校で得たというだけでのアンケートなので、やはりそれぞれ個別に、本当にどうだったのかというのは、かかわってくださったスタッフの皆様方をはじめ、細かくそれぞれにアン

ケートをとっていく必要があるのではないかと。もしこれからとられるのであれば、統括報告書の中にも出てくるのではないかとと思う。

ここに、リピーターの人がどれくらいいたのかということも気になるところで、何年かやっている経験がある中で、引き続き、ずっと見てくださっている人がどれくらいいて、あるいは今回、初めて興味を持って、次回も見てみたいかといったところの、そういうようなことがないと、1回見たが、もういいとなってしまって、なかなか広がらないということもあるので、今後の参考にしていただければと思っている。

よく言われるのだが、費用対効果の面であるが、とても一般財源から多額な費用が出ている。それに対して、77万人程度でよかったのかというところは、私としては、できれば100万人を目指すくらいの気概がないと、これで満足と言われると、億単位が出ているわけなので、本当にこれでよかったのかと、私は疑問に思う。

84ページであるが、助成金の予算額として、当初、1,000万円が見込まれているところを、決算として40万だった意味を聞かせていただきたい。

**○塚原水と土の文化推進課長** アンケートをいろいろな方面からいただくべきだというご意見については、例えば実行委員のメンバーにもアンケートをとっている。今回、かかわっていただいたディレクター陣からも振り返りということで、先般、会議を行わせていただいた。市民サポーターズ会議の皆様からもご意見をいただいているところである。主催者側の立場としても振り返りをしているので、その意見も総括報告には入れていく予定である。

84ページの決算見込みの中で、多額の費用がかかっているのもっと集客してもいいのではないかという意見についても、私どもも交流人口の拡大ということも一つの大きな目的として持っている事業であるので、おっしゃるとおりである。費用対効果という面では経済波及効果がどうだったのかというところは、毎年、総括報告に入れているが、前回2012年の経済波及効果が約19億5,000万円、今回については正式な報告書がまだできていないが、同じレベルくらいにいけるのではないかと考えている。広報を打つと、当然、パブリシティ効果というものも発生する。パブリシティ効果については、報告書の55ページ4の(1)主なパブリシティの内訳及びパブリシティ効果とある。右下に、パブリシティ効果ということで、4億2,600万となっている。それを合計したところが目に見える数字ということで、経済波及効果、パブリシティ効果ということになるが、これについても、どんどんあげていくということ。市民の皆様を文化度を上げるといって上段から見ている感があるのだが、自らのふるさとに誇りを持っていただくということで、自分のふるさとを見つめ直すということも水と土の芸術祭の一つの理念であるので、その推進に役立てることも一つの大きな目的になっている。

助成金が1,000万円のところ40万円だったのはどういうことかということであるが、助成金については、第2回の芸術祭の実績、助成金をいただいた実績を基に目標値として予算を組んだところであるが、前回、助成金をいただいた各種団体プラスアルファ十数団体に助成の申請をしたが、今回、いただけのが1件の40万円という結果になってしまったということで、我々の提案がなぜ認められなかったのかというのは、主催者側から理由については教えてもらえないところだが、私どもがアドバイザーとしてお願いしている文化に造詣の深い先生の考えだと、水と土の芸術祭の1回目は4億近いお金をかけ、現代アートに重きを置きながら大規模にやってきた。その規模を縮小しているのではないかと見られている感もあると思うということでは言われている。水と土の芸術祭の事業構成、予算の分配についても、どこを目的に、どうやっていくのかというのは、もう1回、戦略的に考えていかなければならないと、事務局としても考えている。

**○議長(棚村会長)** 今回、市民プロジェクトやこどもプロジェクトなどに対しては、体験型あるいは参加型、いろいろな形のおもしろい取組みがあり、子どもも大人もみんなで文化体験ができるというのはすごくいい取組みだと思うのだが、ただ、やはりお金の問題になってくるので、できるだけ有効なお金の使い方をもう一度見直していただいて、実際、広報費として6,000万円以上かかっているわけで、その中で、今後、どのようにしたら効果的な集客が認められるのか。もう一度、予算組みを必要とするところに必要な手当てを出すという形にしないと、あてにしていた助成金ということだけでは、一般財源のほうがどんどん膨らんでいくこと

になると困るので、その辺をよく考えていただければと思う。

○原（五）委員 文化と芸術については素人なので申し訳ないのだが、松之山でやっている大地の恵みの事業と、あそこも何年かにいっぺんやるのだが、時期的にバッティングしているのではないかと思う。そうするとメディアが向こうへ行っているような感じがして、新潟市の取組みは全国的にあまりPRされていないような気がする。私の直感なので、実際は分からないが、取り組んだ先生が同じ北川先生なので、素人目で、うつるのではないかと私は感じている。将来的には、時期がバッティングしないなど、もう少し考えるべきではないかと思う。

○塚原水と土の文化推進課長 大地の芸術祭とは事業連携ということで、新潟県で同じ時期に二つの都市で大きなアートフェスティバルが行われているということは非常に大きなインパクトがあるということで、大地の芸術祭は5回目が終わった大先輩になる。大地の芸術祭が3回目のときに我々の水と土の芸術祭の1回目をやった。当時、北川フラムさんが中心になり事業を立てていただいた。大地の芸術祭と水と土の芸術祭は連携し、新潟県全体の魅力を高めていくということ取り組んでいる。我々は後発部隊で、知名度がまだ足りないのではないかと、前回からも言われている。知名度を上げるために広報を積極的に打つべきだと。戦略的な広報というものを考えなければいけないということが前回の大きな課題であったので、今回、広報については力を入れてやったところである。知名度もようやく上がっており、今年、東アジア文化都市という事業のメイン事業に位置づけていただいた関係もあり、各方面からの視察も多数いただいた。JRがアート新幹線ということで、新潟市と越後湯沢を結ぶ特別なアート新幹線の車両を設けていただくことになっているので、これからも両者で、お互いの持ち味を生かしながら、新潟県をアピールできればいいのではないかと考えている。

○議長（棚村会長） ほかに質問はあるか。

ないようなので、水と土の芸術祭2015実施報告について」は終わりとする。

### 3 議事

#### （1）平成28年度特色ある区づくり予算について（区役所企画事業）

○議長（棚村会長） 続いて議事に入る。次第3（1）「平成28年度特色ある区づくり予算（区役所企画事業）」について、区役所から説明をお願いします。

○永井地域課長 平成28年度特色ある区づくり予算について（区役所企画事業）について私から話をさせていただきます。

これまで、特色ある区づくり予算について、私どもからご説明させていただき、皆様からご意見をちょうだいしてきた。その際に、一部、市役所本庁担当課への提案分があるため、後ほど説明させていただきたいということで説明ができなかった予算があった。今回、その部分について、区づくり予算で予算編成をする方向が固まってきたので、ここで説明させていただきたいと思う。

資料2に従い説明させていただくが、資料2の表面の白黒の部分については、これまで説明できなかった部分の事業についてである。裏面は、これまで説明し、皆さんからご意見をいただいたものも含め、区ビジョンの四つの目指す区の姿、新潟市においては地方創生ということで、今年度以降、来年度も取組みを強化していくわけだが、そういった事業をマトリックスという形でまとめた表を作らせていただいた。この中の黒丸印が、すでにお話をさせていただいた事業、白抜き丸が今日説明させていただく事業である。地方創生の中では、特に12次産業化と安心政令市を特出しさせていただく中で整理をかけさせていただいたものである。本来であれば、資料の事前送付の際にお伝えしたが、部会等での意見交換が必要という中で、その時間がとれず、大変申し訳なかったと思っている。今日、資料2の表面に従い、各担当課長から追加分の事業概要を説明させていただくので、それについて皆様方には、ご意見、ご質問をいただければと思っている。この後、担当課から資料2に基づき説明させていただく。

○高橋健康福祉課長 資料2の1番の新規事業、「地産地消に繋げる障がい者自立促進支援事業」である。健康福祉課で行うが、内容としては、平成28年度、平成29年度の2か年を考えている。目的は、障がい者の自立と地産地消を促進していくものである。内容は、障がい者が地元で収穫する豊富な野菜や果樹などを、アグリパークを活用し乾燥野菜など商品、加工品、製品化するという取組みを支援していくものと考えている。商品化、販路の確保についての

支援をしていきたいといった内容である。

○議長（棚村会長）

ただいまの説明について質問のある方はいるか。

○小林（誠）委員 この事業については新規ということで、年度が平成28年、平成29年の2か年となっている。この中で、障がい者に対しての支援はとて素晴らしいことだと思うのだが、予算を使って2年の後のことをどのように考えているのか、お聞きしたい。

○高橋健康福祉課長 2年計画ということで、平成28年度についてはアグリパークで、まずは商品開発を中心に支援していきたいと思っている。2年目については、できた商品の販路を確保する支援を行っていききたいと思っている。その後については、事業所等で自立して自主的に行っていくということで考えている。市の金銭的な支援としては2年間で考えているところである。

○小林（誠）委員 内容としてはそれでよいと思うが、自立をするということになると、だれがどうやってやるかということになってくる。今やっている中に、そのプラスアルファを織り込んでいくことになると、役所から、こうやってやったほうがいいのかということでも支援をするから、とりあえずやってみてはどうかという話の2年間になると思う。その後で自立してやるのは、そこまでという考えではなくて、その後も区や市である程度援助、もしくは手助けをすることを切らないようにしていかないと、せっかく2年間お金をかけても、そこで出来なかったということになるともったいない話なので、ぜひそこは、2年と期間を決めているのであれば、その後の3年目以降については、障がい者に対しての思いやりではないが、すぐに自立させるのではなく、もう少し区や市の支援を続けられるような方向性を持っていただきたいと思う。

○高橋健康福祉課長 おっしゃるように、私たちがこの事業を実施した2年間で障がい者の方々がすぐに自立した生活を送れるとは考えていないので、この2年が終わった後も引き続き、いろいろな形で支援を続けていきたいと思う。

○本間委員 いつも感じるのだが、販路の確保が必ず後回しになる。商品ができてから、どうするかといった形になるので、先にマーケティングや販路の確保をしたうえで、みんなでどのような形にしようかといった、いつも順番が逆な気がするのですが、その辺は検討いただければと思う。

○高橋健康福祉課長 確かに、私たちは不慣れなところもあるので、平成28年末は調査も含めながら、商品も購入していただけるような商品になるように進めていきたいと思う。

○原（五）委員 私は障がい者の施設にかかわっている者だが、こういった事業を各施設でやりたいと思っているが、プロフェッショナルな支援員がいないということで、市でそういった取組みをしていただき、いろいろな施設で、そのまま事業を確保できるような取組みができればいいと思っている。事業所へのプロの人たちの派遣や指導を一緒にしていただければ一番ありがたいと思う。

○高橋健康福祉課長 私たちもこの事業の取組みは初めてになるので、まずは来年行う中で、区内の障がい施設の皆様からもご意見をいただきながら、どのような形がいいのか、どのような形ならできるのかということも聞きながら、先ほどの小林委員の話にもあったが、長い支援をしていきたいと思っている。

○渡辺区長 今、いろいろな話があったが、マーケティングを行うのは当たり前なので、これはしっかりやらせていただく。制度が終わった後、支援は終わるのかということだが、皆さんが自立できるところまで持って行って、あとはマーケティングをしっかりやれば、IPC財団、NICO（にいがた産業創造機構）があるので、いい商品を作ればそこで販売する販路もできるということである。市の補助金としては、6次産業化の補助金も持っているし、これ以外の制度もたくさんある。とりあえず2年間やっていただいて、本当にうまくいくようであれば、別の制度、既存の制度があるので、それを使って支援していく予定にしている。

○議長（棚村会長） ほかにいかがか。

それでは、健康福祉課の案件については以上とする。

続いて、産業振興課から願います。

○野内産業振興課長 最初に、Ⅲ「農商工の連携が、新たな活力を生み出すまち」の2番「果樹剪定枝バイオマス利用実験」である。果樹の栽培過程で剪定枝が発生するが、そのほとんどが焼却処理されている現状となっている。しかし、この剪定枝を木質バイオマス資源ととらえれば、貴重な地域資源になるということで、化石燃料の代替燃料としての活用を目指し、剪定枝の効率的な収集の仕組みや、固形燃料への加工、製品の実用性、安全性などの調査研究に取り組む事業である。

次に、3番「苧麻栽培支援プロジェクト」である。本年度の区づくり事業、「大凧合戦みらいプロジェクト」において、凧綱の材料である麻の自給を目指し、苧麻栽培支援の取組みを進めている。苧麻の葉にベータカロチンやカルシウムといったミネラル分が豊富に含まれていることが分かり、凧綱の材料としての利用だけではなく、苧麻の葉の部分を使い健康食のイメージを持った新たな商品づくりを目指す事業である。

次に、4番「南区ビジネスプランコンテスト」である。食品関連産業の集積や雇用創出、農業の活性化を目的として、南区あるいは新潟市で南区の農産物を活用した6次産業化や12次産業化での起業を目指すプラン、あるいは事業化可能なプランを募集するビジネスプランコンテストを実施し、優秀なプランに対し、事業化に向けた支援を行う事業である。

次に、Ⅳ「大凧が舞い、獅子が跳ね、ルレクチュが実るまち」の5番「大凧合戦観戦クルーズ社会実験」である。本年度の区づくり事業、「未来創造教室」において、白南中学校の生徒が南区活性化のプランを作成した。昨年11月に区長に対し、生徒からのプランの提言があったところである。13のプランの提言を受けたが、南区としても生徒の夢を実現させたいという思いもあり、内容を検討させていただき、そのプランの一つを参考に企画した事業ということである。具体的には、信濃川ウォーターシャトル社の観覧船で信濃川から出発し、中ノロ川の凧合戦会場まで運航するものである。かつて中ノロ川で活躍した蒸気船をほうふつとさせる凧合戦観戦クルーズツアーの実施によって、凧合戦の新しい観戦スタイルを提案するとともに、このクルーズツアーの定着を目指したいというものである。

○議長（棚村会長） ただいまの説明について質問のある方はいるか。

○渡辺（康）委員 剪定枝の関係であるが、非常にいい事業で、とうとうやるのかという感じなのだが、平成28年度1年で成果を確認できるものなのか。また、予算の163万の中身を教えてください。

○野内産業振興課長 今年、剪定枝の収集については、JAから協力いただき、一定量、確保したいと考えている。剪定枝を棒状の製品に加工し、薪の代替品のような感じの物になるのだが、その加工プラントの設備については、開発業者から借りる予定にしており、地元の廃棄物処理業者をお願いし加工試験を行っていただく。平成28年度において、剪定枝の収集から製造、加工、出口の販売といった部分について回る仕組みを考えていきたいと思っている。

○渡辺（康）委員 南区の場合、特に梨が多いのだが、梨の剪定枝の中にも、台湾向けの穂木というものが、果樹収入以外の収入になっていて、梨の木の場合、花、実がなる枝と葉がなる枝に分かれて、実のなる枝が2割くらいで、それ以外は剪定で落とすのだが、今までだと、農家の皆さんは燃やしたり、以前はガス、電気がないときは、燃料として使っていたのだが、最近は化学燃料が出てきて、処分に困っている。積み重ねていて、何かのときに燃料代わりに使っている。今、言われたように単年度の1年で確実に事業项目的に精査できるのかと。平成28年度が終わって継続されないと、どうなのかと思う。非常にいいことだと思うので、確実に1年間で成果が上がることを期待している。

○野内産業振興課長 頑張っていくので、よろしくお願ひしたい。

○渡辺区長 補足をさせていただく。実は今、ルレクチュは褐色斑点病にやられ始めている。南区では約2割の減収になっている。三条では4割の減収になっているという状況が生まれているので、剪定枝と葉っぱが病原になっているので、できれば、一石二鳥をねらう目的もある。ただ、今回作るものは、枝を粉碎して固めるのだが、バイオコークスといって、そのエネルギーがどのくらいあるのか。それをやることによって、どれくらいの単価で販売できるのかというところまでやってみて、その後、一番大事なのが出口である。今年は出口も含め調査しようと考えている。もしそれが出口として売れていくのであれば、来年から本格的にやっ



なければだめだと思っている。

○小林（誠）委員 4番の「南区ビジネスプランコンテスト」について、平成28年度1年間なのだが、予算に250万円という金額を掲げてある。この中で、6次産業化、12次産業化の取組みということだと思うのだが、このコンテストの中で、どれだけの予算を使って、支援をどれだけするのかという、もう少し詳しい内容をお聞きしたい。

○野内産業振興課長 このコンテストについては、まず一次審査を行う。その中で、ある程度いいプランを5プラン程度選び、そのプランに対し、メンター、専門家をつけてプランを磨き上げ、最終的に、その中で一番優秀であったプランに対し、今現在考えているのは賞金100万円を出し、この100万円を使ってビジネス化していただきたいと考えている。先ほど区長から話があったが、市でも12次産業化といった部分でいろいろな支援事業を用意しているので、そういったものも組み合わせながら、起業に対して支援していきたいということである。

○小林（誠）委員 賞金100万円ということはよろしいかと思うが、150万円の中で審査をとということになると思うのだが、あまり審査委員にお金をかけないようにしていただけないかと思う。いらないお金は使わないほうがいいと思うので、できるだけそういったものは配慮していただき、審査も簡素化していただきたいと思う。役所の事業などは早めにしていかないと、やるほうも、5月に出てきて、7月までに出してくれといったものであると、出てくる企業もなくなってくると思うので、告知は早く、締め切りは遅くという感じにされたほうがいいのではないかと思う。

○野内産業振興課長 新年度早々スタートできるように、今、担当が準備を進めている。

○原（五）委員 3番の「苧麻栽培支援プロジェクト」だが、試験栽培する地区は決まっているか。

○野内産業振興課長 「大風合戦みらいプロジェクト」を平成27年度の事業としてスタートしているが、その中で、すでに旧味方地内で苧麻の試験栽培に取り組んでいる。面積が11アールと少ないのだが、新年度はもう少し拡大しながら取り組んでいきたいと思う。

○原（五）委員 実は、信濃川の堤防を走ると、耕作放棄地が大量にあるのだが、河川の占用との調整が難しいかもしれないが、耕作放棄地はタヌキとウサギのすみかになっていて、そこを特産物の栽培地域にできればと思うので、その辺も研究できたらお願いしたい。

○野内産業振興課長 今の取組みであるが、本来、取組みの目的から始めた綱の材料については、風合戦協会あるいは大風組も大変関心が高く、積極的に研修や取組みを進めている。大風組は11組あるが、その綱を全部作るためには11アール程度の面積では足りないので、大風組の風綱の取組みが進めば、もっと面積が必要になってくる。また、苧麻の葉の部分の活用も進んでいけば面積も必要になってくるので、今のご意見なども参考にしながら取組みを進めていきたいと思う。

○本間委員 5番の「大風合戦観戦クルーズ社会実験」ということで、前例のない事業にとでも期待を寄せている。その前例のなさにさらに拍車をかけ、ターゲットとする方々をぜひ、市内はもちろんだが、県外、海外にも目も向けていただきたいと思っている。今、ローカル観光が全国的、世界的にも注目されていて、Airbnb（エアビーアンドビー）というサイトがあり、そこに登録することでいろいろな人が、こういうことができるということが分かる。ぜひそういったものにも登録いただき、南区をどんどんPRしていただければと思う。

○野内産業振興課長 ご意見に感謝する。

○西脇委員 産業振興課という一つの部署でやると、例えば剪定枝の処理ということになれば、農業関係、6次産業だったら農業関係、ビジネスモデルのコンテストといっても、一般の農家の人、生産組織である程度大きなものもあるが、ビジネスというとやはり縁遠い部分もある。区全体というか、大きく広げれば市全体で、例えば剪定枝の処理の技術で、今、松枯れが大変進んでいる。松材線虫という寄生虫が引き起こすのだが、松が枯れたら切り倒して、例えば農家であれば切り倒してそのままおいておくと、そこがまた発生源になるということもある。私は一度議員に、処分するお金だけでも市から補助してもらい、それをきちんと処理できないかということを行ったこともあるのだが、剪定枝の処理技術で、そういうところも絡めて、産業振興課だけではなく、環境保全の分野もひっくるめた中で、技術が生かしていければいいので

はないかと思う。全体を網羅した中で考えることも検討していただきたいと思う。

○**渡辺区長** 松材線虫というのは防除が義務づけられている。スミチオン系で松を防除するという事になっているが、チップにすれば大丈夫であると。業者に運んでいただいてチップにし、エネルギーとして使っていただくことが一番いいと思う。ただ、それに対する補助金を出す制度は今ない。各家庭の松くい虫の木を伐った場合に補助を出す制度はないので、それは業者に出してチップにしてもらって、エネルギーにしてもらう形をとっていただくことが一番いいと思う。ただ、運んでもらうときにサイズの、とった業者さんがそれを販売できるようなシステム、先ほど剪定枝のときに申し上げたが、そういった制度ができていけば、運んだ油代くらいは出るのではないかとこのところ検討している。一番問題になっているのは、果樹のいろいろな病気や剪定枝の問題、そこを私たちは中心にやっていきたいと思っている。松枯れについては、今のところ私どもの頭にはなかったので、ぜひ、防除していただくなり、出していただくなりすれば大丈夫だと思う。

○**西脇委員** まったくそのとおりののだろうが、処理業者へ持っていくと、今、トン当たり2万円とられる。松の幹というと、2トンあれば掛ける2、3トンあれば掛ける3ということで莫大な金額になってくる。古い農家ほど大きな木があって、それが枯れると大変な出費になるので、2万円を出すより、農家は土地がたくさんあるので、例えば燻蒸処理をする。それが一番だと思う。切り株も残るわけなので、それも含めて燻蒸処理する。その若干の補助があって、皆さんにお願いすれば、その辺の防除もうまくいくのではないかと思う。

○**渡辺区長** 燻蒸処理が多分、移動させなくてもいいので、大丈夫だと思う。ただ、ビニールがということか。

○**西脇委員** 燻蒸の薬品はそれほど高いものではないはずなので。

○**渡辺区長** スミチオンで十分なので、スミチオンはそんなに高いものはないので、スミチオン系をかけていただいて、普通のシートをかけていただければ大丈夫だと思う。だいたい2週間から3週間経てば開けてもいいと。ただ、専門的なことをいえば、スミパインというものをやらないとだめだということをおっしゃったと思う。

○**西脇委員** 私は専門家ではないので分からないが、多分、線虫はスミチオンでは死なない。スミチオンをかけるというのは、それを媒介するカミキリ虫を殺すためにスミチオンの殺虫剤を散布するのであって、線虫には効かない。

○**渡辺区長** これは間違ってもらっては困るのだが、スミチオンをかけてカミキリ虫の幼虫を殺すのであって、線虫を殺すのではない。カミキリ虫を出すのを防ぐものである。これがマツクイムシ防除である。これだけは分かっていたきたい。

○**西脇委員** 二人でもういっぺん研究し直そうと思う。

○**大橋委員** 今の話を聞いていて、私の家も松枯れが始まり9本伐った。伐りっぱなしでいいと言ったら、6万円かかった。それをどうしたかという、伐ったところを見ていた人がいて、ほしいと言って、みんな持って行ってくれた。いろいろなところで松枯れがあると思うが、お金を出してくれれば一番いいと思うが、そうではなく、広報で、今、こういう状態にあり、これはこのように処理してほしいとか、今、薬がよく分からないという話だが、ここでやっても、私たちのような一般の人は全然分からないので、こういう処理があるといった広報をしていただければありがたいと思う。

○**渡辺区長** ありがとうございます。

○**議長（棚村会長）** ほかに質問はあるか。

○**大那委員** 5番「大風合戦観戦クルーズ社会実験」であるが、先日、私のところへ風合戦のポスターが届いた。届いたばかりでまだ広げていないのだが、このクルーズ船のことはポスターには載っているのか。

○**野内産業振興課長** 載っていない。

○**大那委員** 全くPRなしで事業を考えているのか。これは今年度からの実施か。

○**野内産業振興課長** 今年6月の風合戦でこの事業を展開する予定である。

○**大那委員** この辺のPRの方法はどのようなになっているのか。

○**野内産業振興課長** 市報やホームページにも当然掲載したいと思うし、この事業自体は旅行

業者に委託を考えているので、そちらからもPRはしていただく予定にしている。

○大那委員 確かにそれはいいかと思うが、市報にいがたというのは意外と隅から隅まで見ていない人が余計で、あまりあてにならないのだが、ただ、こういったすばらしい事業をやるために、全国に配布されるポスターに記載されていないというのは残念だった。

○議長（棚村会長） ほかにあるか。

それでは以上で産業振興課も含め、平成28年度特色ある区づくり予算については終わりとする。

#### 4 報告・連絡事項

##### (2) 自治協議会会長会議について

○議長（棚村会長） 続いて、次第4(2)「自治協議会会長会議について」である。私から報告させていただく。

1月12日に区自治協議会会長会議があり、北区役所に行ってきた。議題としては、平成28年度の区自治協議会委員の全体研修についてどのようにするかという内容と、専門講座を行い、委員のスキルアップを目指そうということである。区自治協議会の課題の整理についても意見交換され、そちらについては後日、市民協働課から、その後の検討結果が出てくると思われる。以上、報告をさせていただいた。

何か質問はあるか。

なければ、後日、それぞれについてご案内があると思うので、よろしく願いたい。

##### (3) 新潟市国民保護協議会について

○議長（棚村会長） 続いて、次第4(3)「新潟市国民保護協議会について」である。1月19日に開催された新潟市国民保護協議会に田村副会長が出席されたので、報告をお願いしたい。

○田村委員 資料3の3枚綴りの資料がいつているかと思うので、後でご覧いただきたい。

当日、感じたのは、7年ぶり5回目の会議だということだった。7年間、何も会議をしていないわけなので、国民保護がどのようなものかということが私自身も分からなかった。ただ、資料を見たり、聞いたりすると、最近では国際的なテロや世界最大の柏崎刈羽原子力発電所を抱えているわけなので、そういったところで突発的な事故があった場合に、いかに的確に、スムーズに行くかということが趣旨のようである。それが起きなければいいわけだが、それらをスムーズに行うために条文を変えたりするということである。

女性の方から質問が1つ、2つ出たのだが、柏崎刈羽原子力発電所で事故があったときに、新潟市は30キロ圏内には入っていないが、50キロ圏内に少し入ると。先日の新潟日報の記事を見ると、風向きによってはおそらく被害があるのではないかという質問が出た。長岡と新潟市は救援の関係で協定を結んでいるはずである。そういったものを的確に行っていただきたいといった質問が出た。その程度であり、突発的な事故のときにスムーズにやるための条文の改正なのだという説明があったので、報告申し上げる。

○議長（棚村会長） これについて質問のある方はいるか。確認だが、新潟市国民保護計画というのは、新潟市のホームページから取り出すことができるのか。

○田村委員 できるそうである。中身を確認されたい方はホームページなどで確認していただければと思う。

○議長（棚村会長） 特に質問がなければ、以上で、新潟市国民保護協議会については終わりとする。

##### (4) 部会報告会

○議長（棚村会長） 続いて、次第4(4)「部会報告」である。部会の検討状況を報告していただく。はじめに、第1部会的小林委員から願います。

○小林（誠）委員 第1部会の佐々木委員が欠席のため、副部会長の小林から説明させていただく。

第9回の第1部会を平成28年1月13日に開催した。会議内容としては、第1部会の事業の中の南区安心安全みまもり隊についてと、区自治協議会提案事業の事業評価についてである。南区安心安全みまもり隊については、実施する際の課題、既存の見守り活動の実施団体の事例等の情報を整理し、今後の方向性、実施内容を引き続き検討していくことになった。検討して

いくということは、見守り隊をどのような形で組織し、実際に行っていくかということ、第1部会でもう少し詰めていきたいと思っている。提案事業の事業評価について、皆様方から意見をいただき振り返りをした。

○議長（棚村会長） 続いて、第2部会の西村委員からお願いします。

○西村委員 1月14日に第9回の第2部会を開催した。会議内容としては、区自治協議会提案事業の事業評価についてということで、私どもは、11月は「家族ふれあい月間」という事業をやってきたので、そのことについて話し合いをした。今回は、講演会ではなく映画の上映ということで、多少、予算が余っているということで、家族ふれあい月間のときにお配りした冊子の形を変えて市民の皆さんに配れたらいいのではないかとといった話が出たり、今回の映画に関していえば、PRの方法をもっと違ったものにできたのではないかなど、PRの関係ではいろいろな意見が出た。

○議長（棚村会長） 続いて、第3部会長の市嶋委員からお願いします。

○市嶋委員 私ども第3部会は1月12日に部会を行った。会議の内容としては、南区綱引き合戦についてということで、ほかの部会の皆さんが事業評価をやる中、私どもはまだ事業が一つ残っている。2月6日に綱引き合戦を行うにあたり、前回の部会は、当日の会場であるカルチャーセンターを使い、実際、綱を見ながら、実践しながらでリハーサルに近いような打ち合わせを行った。参加申込みの状況であるが、記載のとおり、本日現在で8チームの参加をいただいている。詳細については、新飯田地域、庄瀬、鷺巻、大通、白根、味方、月瀉という地区の皆様方からエントリーをいただいている状況である。お声がけをいただき、ここまで参加していただくことになったことに御礼申し上げます。月末まで参加の余裕があるので、寒い時期ではあるが、優勝すると景品もあるということで、詳細は言うなといわれているが、そのあたりもダシに使っていただき、ぜひ多くの参加をお願いしたいと思う。もともと地域間の交流が少ないので、それをどうにか繋げていきたいというのが本来の趣旨なので、その部分だけご理解いただき、引き続きよろしくをお願いします。

○議長（棚村会長） 続いて、広報部会からお願いします。

○青木委員 第9回広報部会を1月18日に開催した。自治協議会だより第5号は3月20日に発行を予定している。5号については、これから行われる自治協議会の研修報告、綱引き合戦、今回の地域情報発信では、南区にある四つの児童館の情報を発信したいと思っている。

○議長（棚村会長） それでは、部会報告に対し、質問はあるか。

特になければ、部会報告はこれで終わりとする。

#### **(5) その他**

○議長（棚村会長） 続いて、次第4(5)「その他」である。私から、来月の南区自治協議会研修会について報告させていただく。

前回にも報告させていただいたが、自治協議会の後、研修会を予定している。先日、南区コミュニティ協議会会長会議でも話をさせていただき、自治協議会委員のほか、コミュニティ協議会の皆様からも参加いただきたいということでご案内させていただいた。講師の先生について、先日、打ち合わせをさせていただき、今、先生には準備を進めていただいている状況である。

そのほか、事務局から何かあるか。

ないということなので、「その他」は終わりとする。

#### **5 次回全体会の日程について**

○議長（棚村会長） 次回の日程についてであるが、来月の自治協議会本会議終了後に研修会を開催するので、開催時間を30分早め、通常どおり、2月の最後の水曜日ということで、2月24日（水）午後1時30分から、南区役所講堂で開催ということでよろしいか。

年度末になるとお忙しいと思うので、3月の自治協議会の日程も本日決めさせていただきたいと思っている。毎月最終水曜日となると、年度末は3月30日（水）2時からの開催予定なのだが、もし、忙しいということになれば、1週早め、3月23日（水）2時から開催することも可能なのだが。会長、副会長としては23日に開催したいのだが、23日でもいいのか。

（異議なし）

○議長（棚村会長） それでは、3月23日（水）2時からで変更とさせていただきます。

**5 閉会**

○議長（棚村会長） 以上で、第10回南区自治協議会を閉会する。

**（午後3時30分）**